

研究内容

ここ数年、「AI」や「IoT」などの言葉が多く使われ、通信・センシング技術は著しく発展した。今日では、スマートフォンやそれにつながるウェアラブルデバイスの利用により最新の気象データほか、日常生活における人の情報（バイタルサインの変化）が取得可能となってきた。

現在、我々はこの小型気象観測センサを用いて、都市環境問題の一つであるヒートアイランド現象の観測をはじめ、都市内の公園（緑地）がもたらす大気冷却効果について定量的に明らかにし、都市計画を進めるうえでの基礎資料の作成に取り組んでいる。

一方で、日常生活における人の情報を取得することにより、「どのような環境変化・負荷があったときに、生体反応が起こったのか」について時系列かつ個人毎に追従することが可能となってきた。そこで、「森林セラピーを楽しめる「森林セラピー基地」と「セラピーロード」および都市内の大規模公園を対象として、気象観測を実施しながら「緑地のもつ「癒し」効果を気象学的観点から定量的に検証している。さらに、この気象観測ネットワークを利用した気象災害予測に取り組んでいるほか、~~実証実験を~~ 一方、観測 田ん

想定パートナー

- ・環境アセスメントおよびコンサルタント
- ・各市町村の都市計画課および危機管理課
- ・農業組合
- ・観光、旅行会社
- ・教育機関

応用分野

- ・ヒートアイランド対策などの都市計画
- ・小型気象センサを用いた農業生産への適用
- ・IoTを活用した緑の療法効果（クアオルト）による観光誘致
- ・地方自治体と連携した気象災害予測
- ・中等教育学校における防災教育の実践